●このたびは当社の自転車をお買い上げいただき、誠に有難うございます。本書は大切に保管して頂き、必要に応じてご覧ください。

1．組み立てに必要な工具

付属工具

- ① 4mm六角レンチ（ハンドルバー固定用）
- ③ 5mm六角レンチ（ステム固定用）
- ① 6mm六角レンチ（サドル位置調整用）
- ②15mm スパナ（ペダル用）

必要工具

- ⑤カッターもしくはニッパー（荷ほどき用）
- ⑥プラスドライバー（ベル・リフレクター取付用）

2．本体および付属品のチェック

自転車本体を箱から取り出して頂き、本体に損傷や変形がないかチェックしてください。
※付属品が足りない場合や、本体に損傷や変形があった場合はご連絡ください。

付属品　・ペダル R(右用) × 1・ペダル L(左用) × 1・後輪用ハブキャップ× 2・クイックリリースレバー×1・仏式バルブ×1（装着済）
・5mm六角レンチ × 1・4mm六角レンチ × 1 ・スパナ 15mm × 1 ・取扱説明書 × 1

3. 前輪（クイックリリース）とハンドルの取り付け

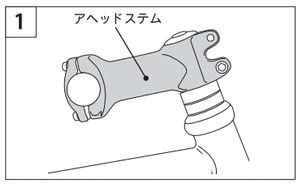
使用工具　カッターもしくはニッパーなど

前輪とハンドルは、自転車本体にインシュロックで固定されておりますので、カッター等でインシュロックを外してください。

⚠警告

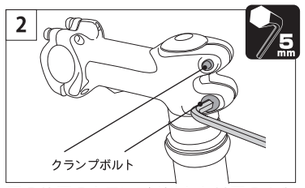
クイックリリースの取扱い方法を必ずご確認ください。
クイックリリースは工具を必要とせず、ワンタッチで車輪をはずせる便利な機構ですが、調整と締め付け力が適切でないと、走行中にホイールがゆるんだり外れたりし、重大な事故に繋がる恐れがあり非常に危険です。
乗車前にはクイックリリースの構造と取扱い方を理解した上で、必ずきちんと取り付けされているか確認のうえご乗車ください。

1



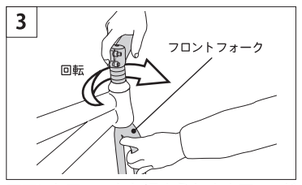
箱から出した状態はアヘッドステムが反対向きとなっている車種もあります。

2



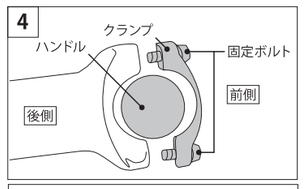
図の位置のクランプボルトを付属の六角レンチを使用して、アヘッドステムが手で動かせる程度に緩めます。

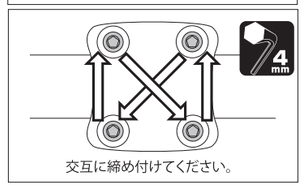
3



フロントフォークを押さえたままアヘッドステムを前方に回転させます。

4

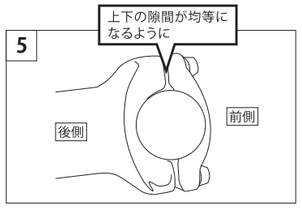




ハンドルバー固定用ボルトを左回し(反時計回り)に回してクランプを取り外しハンドルバーを取り付けます。この際、ボルトは交互に均等に締め付けてください。

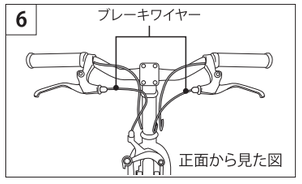
※必ず垂直にボルトを締め付けてください。斜めに取り付けるとネジ山を破損する場合があります。

5



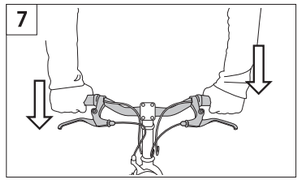
上下の隙間が均等になるように注意して締め付けてください。

6



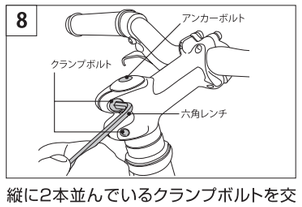
ハンドルバーを固定する際はワイヤー類（ブレーキワイヤー・変速ワイヤー）に絡まりが無いことを確認してください。

7



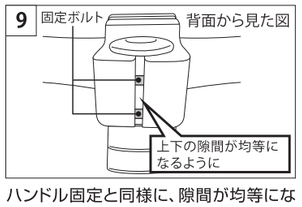
両手で下向きに強い力を加えてもハンドルバーが回転しないことを確認してください。

8



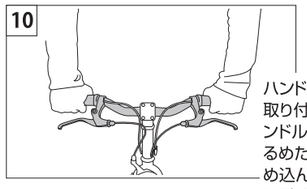
縦に2本並んでいるクランプボルトを交互に締め付け、ハンドルステムを固定します。

9



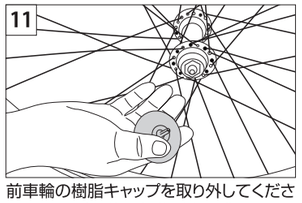
ハンドル固定と同様に、隙間が均等になるように注意して締め付けてください。

10



ハンドルにしっかりと固定されているか、ハンドル取り付けにガタがないかを確認してください。ハンドルにガタがある場合は、クランプボルトをゆるめた状態にしてから、上部アンカーボルトを締め込んで調整してください。調整後は緩めたクランプボルトを締め直してください。

11



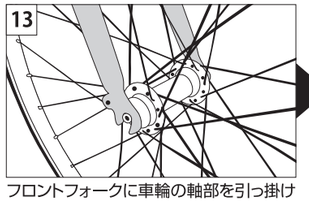
前車輪の樹脂キャップを取り外してください。キャップの芯の部分が中に残らないよう、引き抜くように外します。

12

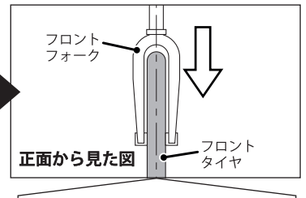


ブレーキのロックレバーを図の方向に回して解除してください。ブレーキアーチが外方向に少し開きます。

13

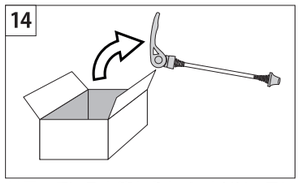


フロントフォークに車輪の軸部を引っ掛けるように載せてください。軸部の一番外側の部分のみが引っ掛かります。



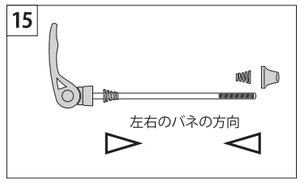
タイヤを入れる時は タイヤの中心とフロントフォークの中心が重なる様にセットしてください。

14



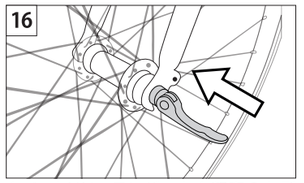
付属している小箱からクイックリリースレバーを取り出してください。

15



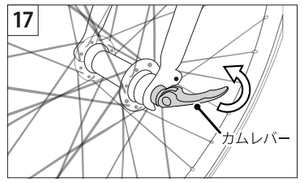
クイックリリースレバーの構成は図のようになっています。左右のバネの方向にご注意ください。

16



クイックリリースレバーを自転車の左側（自転車に向かって右側）から差し込んでください。(バネの方向に注意してください。)

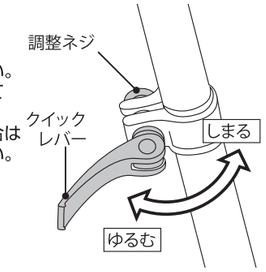
17



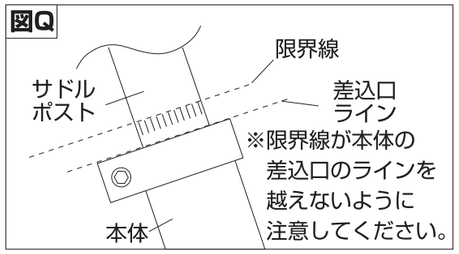
カムレバーはきつく締め付ける、右端(レバーと反対側)を手で固定して、レバーを時計回りの回すと締めこまれていきます。
※カムレバーが最大の力で止められる程度の場所が望ましい。

4．サドルの調整

●クイックレバーを「ゆるむ」の位置にしてください。
サドルの高さを調整し、「しまる」の位置へ戻して固定してください。
クイックレバーが硬すぎるもしくはゆるすぎる場合はレバー反対側の調整ネジを回して調整してください。



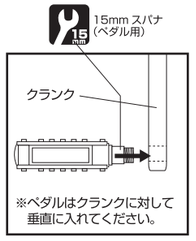
図Q



⚠注意　サドルの高さを調整する際には、サドルポストの限界線が差込口のラインを超えないように注意してください。(図Q)

5．ペダルの取り付け

使用工具　15mm スパナ（ペダル用）



⚠注意　ペダルには右用左用があります。
※クランクは左右でネジの向きが異なります。
ペダルはクランクに対して垂直に入れてください。

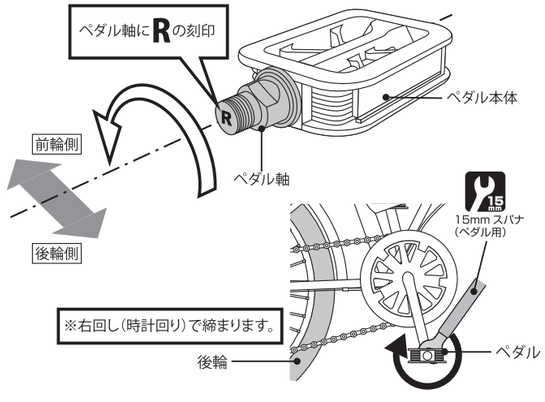
⚠注意　ペダル取付時は必ず、初めに手で回せる限りねじ込み、最後にスパナを使用して本締めを行ってください。
ペダルが斜めに穴に入ったまま、力を加えるとクランクが破損する可能性がある為、ご注意ください。
※ペダルを本締めした際にバリが出る事がありますので、バリが出た場合はニッパー等でバリを取り除いてください。

●ペダルの刻印を確認の上、左右間違えないようにしてください、必ず手でクランクに対して仮止めを行ってください。

●左右のペダルの仮止めが終わりましたら、付属の15mmのスパナを使って本締めを行ってください。(締付トルク40±5N· m)
※本締めを行う際は左のブレーキレバー（後輪ブレーキ）を握った状態で行ってください。

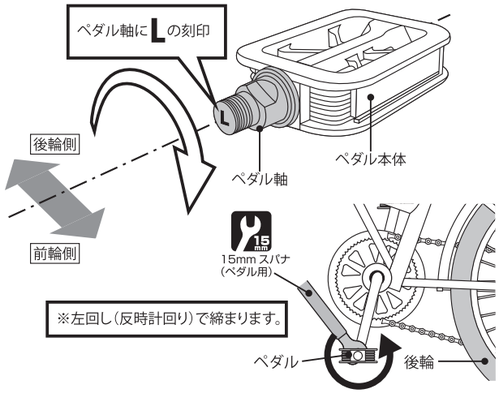
① 右側用ペダル（クランクに対して時計回りで取付）

右回し(時計回り)にペダルの軸のみを回してください。
ペダル本体(足を乗せる部分)を回しても取り付けできません。
必ず軸を回してください。



② 左側用ペダル（クランクに対して反時計回しで取付）

左回し(反時計回り)にペダルの軸のみを回してください。
ペダル本体(足を乗せる部分)を回しても取り付けできません。
必ず軸を回してください。

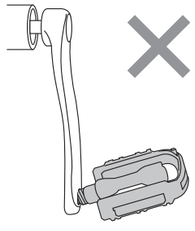


⚠注意

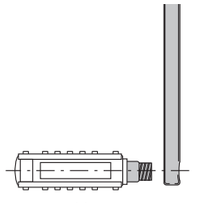
ペダルを無理矢理クランクにねじ込まないでください。
無理矢理ペダルをねじ込んで自転車を走行させると大変不安定になるほか、クランクのネジ山が削れてペダルが脱落してしまう可能性があります。
ねじ込みの最後は付属工具にてしっかり締めてください。締め付けがゆるいと走行時にネジがゆるみ、ペダルが脱落する可能性があります。走行時にペダルが脱落すると大変危険なうえ、クランクの修理も不可能となってしまいます、ご注意ください。
※誤った組立方法に起因する破損は、保証対象外となりますのでご注意ください。[保証規定B-13]

締めこんだ際にバリが発生した時は速やかにバリを取り除いてください。
※「バリ」を取り除く際は、鋭利になっている場合もあるので怪我をしないようにお気をつけください。

ペダルの端に荷重をかけて走行しないでください。
ペダルの端に過度な荷重をかけると破損に繋がる可能性があります。ご使用の際は、ペダル面へ均等に且つ取り付け軸付近に荷重をかけるようにして走行してください。



斜めに取り付けたり無理矢理ねじ込まないでください。



クランクに対してまっすぐにペダルを取り付けてください。



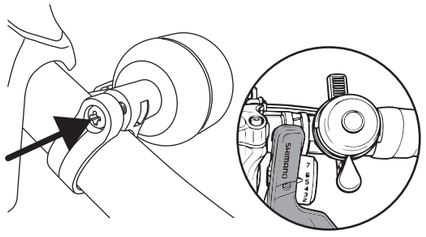
ペダル取り付け時に発生する「バリ」は速やかに取り除いてください。バリを取り除く際は尖りにご注意ください。

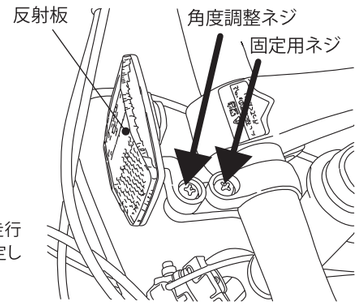


図のようにペダルの端に荷重をかけて走行しないでください。なるべく取り付け軸付近に足を乗せてください。

6. ベルと反射板の固定

使用工具　プラスドライバー





ドライバーでベルと反射板を適切な位置に固定します。ベルは走行中鳴らしやすい位置に、反射板は正面を向くようにしっかりと固定してください。

7. 各部の点検

●最後に組み上げた部分を点検します。
以下の点検項目のチェックを行ってください。

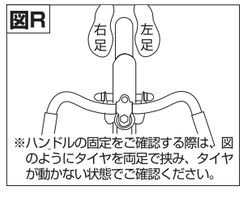
①ハンドルを左右の方向に動かした際に、緩みやガタがないか。

②ハンドルを上下に方向に動かした際に、緩みやガタはないか。

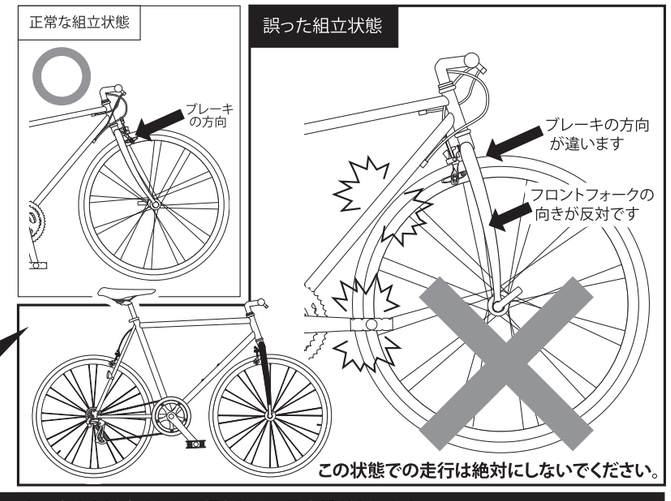
※ハンドルの固定確認は、自転車の前輪側に立ち、両足で前輪を挟んでチェックしてください。(図R)

③サドルを手で持って、左右に動かした時に動かないか。

図R



※ハンドルの固定をご確認する際は、図のようにタイヤを両足で挟み、タイヤが動かない状態でご確認ください。



注意　一部の車種において、フロントフォークの向きを逆向きにして梱包している車種があります。
フロントフォークが逆さまの向きですと、前輪を取り付けたときにフレームやペダルに接触する可能性があり大変危険です。
必ずフロントフォークを正常な向きに直してから、組立を始めてください。この時にブレーキを外す必要はございません。

※項目７の乗車前の確認は、自転車整備士有資格者が行ってください。

※ご乗車になる前には、変速機およびブレーキの調整が必要です。
（総合組立説明書の各項目をご参照ください）

組立・調整動画がご覧いただけます。